保育園での子どもの声の騒音問題に関する市民意識調査結果

QUESTIONNAIRE SURVEY ON CHILDREN PLAYING NOISE IN NURSERY SCHOOL

橋本典久 — * 1 安部信行 — * 2

Norihisa HASHIMOTO — * 1 Nobuyuki ABE — * 2

キーワード：
保育園, 子どもの遊び声, アンケート調査, 市民意識

Keywords:
Nursery school, Children playing noise, Questionnaire survey, Citizen consciousness

A questionnaire survey on the children playing noise in nursery schools was carried out as a target for general citizens in Tokyo and the other prefectures. The survey collection rate is 17.7 % and the number of questionnaires collected is 341. The results show that a rate of the persons opposing the construction of nursery schools is about 10 %, and the reason of opposition for the construction is only feeling of an anxiety for the children playing noise. If the anxiety can be then dispelled, it is possible to resolve this problem.

1. はじめに

保育園の新規建設が近隣住民の反対によって中止や延期になる事例が多く発生し、待機児童問題への影響等から社会的にも大きな関心事となっている。これに伴い、東京都では2017年に環境確保条例の改正を行い、保育園等からの子どもの声を騒音の規制対象から外した。大阪府では2019年に、子ども施設と地域の共生を図るための手引書¹⁾を作成するなど、各自治体が夫々の取り組みを始めているものの、具体的な解決方法は今だ見当たらず、当事者はこの状況に困惑するばかりとなっている。

保育園建設の反対理由には、子どもの声やイベントなどの騒音問題、登降園時の交通の問題、砂ぼこりや施設からの臭いなどがあるが、最も大きな理由は、園庭で遊ぶ子どもの声である。筆者らは、保育園10施設を対象として園庭遊び時の子どもの声の騒音測定を実施し、その大きさや周波数特性、対策としての防音塀の効果など音響的なデータを明らかにした²⁾。これにより、騒音の大きさに関する客観的な検討は可能となったが、音の問題は物理的な条件だけでは解決せず、人間の心理的要素も大変に大きな要因となる。

解決策を探る基礎的条件として、この問題に対して一般市民がどのような意識を持っているかを把握することは大変に重要であるが、これまでその種の調査研究は殆どなされていない。厚生労働省が行った「人口減少社会に関する意識調査」³⁾の中で、これに関する質問調査が一間だけ行われ、近隣住民の苦情や立地反対に同感できると答えた人が3割強に上ったことが報告されているが、それ以外の詳細な調査は特に行われておらず、また、保育園建設問題に焦点を当てた調査も全く行われていない。

今回、首都圏の戸建住宅居住者を対象として、当該問題に対する市民の意識調査を実施した。本調査は、市民の意識を知って問題の

解決策を探るための基礎調査であり、そのため分析型のアンケート調査を目指した。以下に、その調査結果を示す。

2. アンケート調査内容

2.1 調査地域および回答数

調査概要を以下に示した。首都圏1都3県の40地域を選定し、各々に50通を配布した。用途地域は予め調べて調整の上、配布地域を決定した。回答数は多いとは言えないが、統計的には十分に実態を把握できる数値であると考えた。

- ・調査名称：「地域社会の騒音問題に関する市民意識調査」
(注：保育園問題をあまり意識させないよう、この名称とした)
- ・対象地域：東京、神奈川、埼玉、千葉の各10地域、計40地域
- ・対象住宅：1戸建住宅
- ・配布方法：配布は各戸にポストイング、回収は郵送
- ・調査時期：2016年(平成28年)8月8日～10日に質問票配布
回収期間は2ヶ月
- ・用途地域：第1種低層住居専用地域から準工業地域まで
- ・配布数：1927通(40地域に各50通の予定が、一部未配布)
- ・回答数：341通(回収率17.7%)

2.2 質問内容

質問内容は表1の通りである。アンケートは選択形式で、各質問に回答項目が用意されているが、ここでは紙面の都合で省略した。質問の主な内容は、騒音問題の認識、居住者の地域状況、子どもの遊び声に対する意見、保育園の建設立地に対する意見、心理要素、回答者属性などの全36問である。なお、用途地域は選定の上で用紙を配布しているので、質問項目には含まれていない。参考までに、自由記述の回答欄も用意した。

¹⁾ 騒音問題総合研究所・代表 八戸工業大学名誉教授
(〒039-1111 八戸市東白山台4-5-3)

²⁾ 八戸工業大学・感性デザイン学科 准教授

¹⁾ Representative, General Research Laboratory of Noise Problem, Prof. Emeritus, Hachinohe Institute of Technology

²⁾ Assoc. Prof., Hachinohe Institute of Technology

2.3 回答状況および回答者の属性

各都県の回答数は表2の通りであり、概ね均等となっている。用途地域毎の回答比率は表3の通りであり、住居系（住専＋住居地域）が計 61.0%、商業系（商業＋近隣商業）が計 30.5%、工業系が 8.5%となっている。

回答者の属性は図 1 に示す通りであり、特に偏った傾向は見られず、ほぼ現状を反映した分布となっていると考えられる。男性、女性はほぼ半分、年代では 60 代、70 代がやや多いが、現実にも保育園問題で関与の大きい年代であることから、これも適正な分布傾向であると考えられる。

表 2 各都県の回答状況

地域	回答数
東京都	80
埼玉県	90
神奈川県	92
千葉県	79
計	341

表 3 用途地域別の回答状況

用途地域	全体比率 (%)
1 種低層住専	16.7
1 種中高層住専	11.1
2 種中高層住専	5.0
1 種住居地域	24.0
2 種住居地域	4.1
商業地域	25.5
近隣商業地域	5.0
準工業地域	8.5

3. アンケート集計結果

3.1 単純集計結果

各質問に対する主な回答結果を図化したものを以下に示す。単一選択回答に関しては、回答の比率を円グラフで、複数回答に関しては、回答者全体に関する比率を棒グラフで示した。

1) まず、図 2 に示すように、「近隣騒音問題は重大な社会問題だと思いますか」の問いでは、「そう思う」が 60.2%、「どちらとも言えない」が 33.8%、「そうは思わない」が 5.9%と、予想以上に近隣騒音問題を重大な問題と捉えていることが分かった。この結果

表 1 アンケートの質問内容

No.	質問内容
Q0	(用途地域) [質問外]
Q1	近隣騒音問題は重大な社会問題だと思いますか。
Q2	近隣騒音トラブルが増加していますが、その原因は何だと思いますか。(複数回答)
Q3	これまで近隣からの騒音を迷惑に感じたことはありますか。
Q4	(上記で「ある」と答えられた方への質問) それは、どんな騒音ですか。(複数回答)
Q5	近隣騒音問題が事件などの深刻なトラブルにまで発展する要因は何だと思いますか。(複数回答)
Q6	あなたの住んでいる所は静かな所ですか、騒がしい所ですか。
Q7	あなたの住んでいる所では、地域の行事や共同作業などがよく行われていますか。
Q8	あなたの住んでいる所は、人口密度の多い所ですか、少ない所ですか。
Q9	こどもの遊ぶ声も騒音だと思いますか。
Q10	子どもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切であると思いますか
Q11	今後、社会的方策として保育園の数を増やしてゆく必要があると思いますか。
Q12	あなたの自宅の横に保育園ができるとすると、騒音に対する不安を感じますか。
Q13	保育園建設に近隣住民が反対する事例が増えていますが、これをどう思いますか。
Q14	この問題を解決するためには、何が有効だと思いますか。(複数回答)
Q15	保育園側は近隣対策として、何をすべきだと思いますか。(複数回答)
Q16	保育園側は騒音対策として、具体的に何をすべきだと思いますか。(複数回答)
Q17	保育園の立地に関して、近隣住民が我慢することも必要だと思いますか。
Q18	保育園からの子どもの声の騒音に関して、近隣住民が我慢することも必要だと思いますか。
Q19	保育園や幼稚園などは迷惑施設だと思いますか。
Q20	静かな住宅地には、保育園や幼稚園を建てるべきではないと思いますか。
Q21	保育園や幼稚園などが隣にできることにより、土地の資産価値が下がることがあると思いますか。
Q22	仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起こったらどうしますか。
Q23	あなたが絆を感じるものは何ですか。(複数回答)
Q24	人間は信用できると思いますか。
Q25	周りの人は自分の感じ方や考え方を分かってくれていると思いますか
Q26	人間は、本来、一人ぼっちなのだと思いますか
Q27	お隣の方とは仲がよいですか
Q28	地域社会に属しているという感じがありますか
Q29	将来のことを考えると不安になりますか
Q30	日頃から漠然とした不安感がありますか
Q31	日々、平穏に暮らしたいと思っていますか。
Q32	あなたの性別は、どれですか。
Q33	あなたの年代は、どれですか。
Q34	現在の住居での居住歴はどれくらいですか。
Q35	仕事をされていますか。
Q36	同居の家族構成として当てはまるものは、どれですか。

図 1 回答者の属性一覧

に呼応して、「これまで近隣からの騒音を迷惑に感じたことはありますか」（図省略）では、「ある」が54.5%、「ない」が45.5%と、僅かではあるが「ある」と答えた人が上回った。近隣騒音問題が益々大きな問題となっていることを裏付ける結果となっている。

2) 迷惑に感じた騒音の種類（複数回答）は、図3に示すように車のエンジン音・アイドリング音が最も多く23.2%であった。この傾向は昔から同じであり、予想通りであった。2番目が犬の鳴き声の15.5%であり、そして、3番目が子どもの声（遊び声、泣き声など）で12.3%であった。店舗やカラオケなどの営業騒音や、テレビ、ステレオなどの音、エアコン室外機などを抑えての3位であり、保育園の建設反対運動が多くなっているのが頷ける結果となっている。一方、「子どもの遊ぶ声も騒音だと思いますか」の問いでは、「騒音である」と答えた人は1.5%に過ぎず、「ある程度、大きな場合は騒音だ」が27.4%となっている。騒音の大きさが抑えられれば、問題が解消する可能性があることが示唆されている。

3) 保育園問題に関する質問では、「子どもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切であると思いますか」に対して、「非常に大切だと思う」が33.2%、「大切だと思う」が58.2%で併せて91.4%にのぼった。ちなみに「全く思わない」は0%であった。大変に冷静な回答である。また、「保育園や幼稚園などは迷惑施設だと思いますか」（図省略）に対しても、「思わない」が78.1%、「どちらとも言えない」が20.4%、「思う」は僅か1.5%と、これも比較的好意的な結果となっている。その一方、「あなたの自宅の横に保育園ができるとすると、騒音に対する不安を感じますか」（図6）では、「大いに感じる」が10.7%、「少し感じる」が36.4%と、併せて47.1%となり、半分近くの人が不安を持っていることが分かる。この不安を解消することが問題解決の第一歩になるということであり、大変に重要な結果である。

4) 「今後、社会的方策として保育園の数を増やしてゆく必要があると思いますか」（図省略）の問いで、「大いに必要」は52.2%、また、「静かな住宅地には保育園を建てるべきではない」（図省略）という意見は9.8%に過ぎず、49.7%の人は、そうは思わないと答えている。保育園の必要性が広く認識されている結果であると考えられる。

5) 「仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起こったらどうしますか」（図7）では、「強く反対する」が3.3%、「反対する」が7.1%

と、合計で約10%が反対であった。「特に反対しない」は56.5%、「歓迎する」が8.6%であるから、反対しないという方が圧倒的に多い。しかし、その他の結果も合わせて、現在は、比率で言えば約10%（「強く反対する」に限れば3%程度）の反対意見が結果を左右する状況となっており、状況改善の余地が大きいといえる。

Q1:近隣騒音問題は重大な社会問題だと思いますか。

図2 単純集計結果（1）

Q4: (上記で「ある」と答えられた方への質問) それは、どんな騒音ですか。(複数回答)

図3 単純集計結果（2）

Q9:こどもの遊ぶ声も騒音だと思いますか。

図4 単純集計結果（3）

Q10:こどもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切であると思いますか。

図5 単純集計結果（4）

Q12: あなたの自宅の横に保育園ができるとすると、騒音に対する不安を感じますか。

図6 単純集計結果(5)

Q22: 仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起ったらどうしますか。

図7 単純集計結果(6)

3.2 相関分析結果

表1に示す質問項目に関する回答間の相関分析を行った結果を表4に示した。この結果、相関係数0.6以上の相関関係が見られたものは、Q9-Q12(相関係数0.60、以後数値のみ示す)、Q12-Q13(0.64)、Q12-Q22(0.61)、Q13-Q22(0.62)、Q17-Q18(0.75)、Q20-Q22(0.60)の6ケースであり、何れも正の相関である。これらの結果を含めて、相関分析により得られた内容を整理すると以下の通りである。

1) 保育園建設に関する諸質問と用途地域に関する相関は全く見ら

れなかった。同様に、住んでいる所が静かな所かうるさいところか、人口が多い所か少ない所かについても全く相関が見られなかった。これまで、静かな所に住んでいる人ほど保育園の立地等に反対する傾向があると考えていたが、保育園建設に反対するかどうかは、地域状況には関係なく、ひとえに個人の考え次第ということになる。

2) 年代、性別、居住歴の長さ、仕事の有無、単身を含めた家族構成などと、保育園建設への反対意見にも全く相関関係は見られなかった。

表4 各回答間の相関係数(相関係数0.6以上を墨塗り)

	Q0	Q1	Q3	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	Q34	Q35	Q36
Q0	1.00	0.01	-0.01	0.24	0.01	-0.28	0.00	0.00	-0.06	0.01	-0.01	0.00	0.01	-0.01	0.07	0.07	0.06	0.01	0.03	0.01	0.05	0.02	-0.03	0.00	-0.05	-0.01	-0.04	-0.09	-0.10	0.16
Q1		1.00	-0.19	0.05	-0.11	0.04	0.28	-0.09	-0.01	0.31	0.24	-0.14	-0.12	0.14	0.16	0.10	0.18	0.05	0.09	-0.03	-0.02	0.00	0.04	0.08	0.09	-0.09	0.01	-0.02	-0.03	-0.01
Q3			1.00	0.05	0.05	-0.09	-0.21	0.11	0.12	-0.21	-0.22	0.08	0.09	-0.17	-0.16	-0.17	-0.21	0.15	0.03	-0.06	0.06	0.00	-0.09	-0.12	-0.03	0.16	-0.03	-0.02	0.03	0.02
Q6				1.00	0.08	-0.18	0.05	0.03	0.02	0.05	0.05	-0.01	-0.01	0.00	0.04	0.07	0.04	0.04	0.09	0.01	-0.04	0.08	0.00	0.03	0.06	-0.02	0.05	-0.01	-0.04	-0.01
Q7					1.00	0.10	-0.07	0.04	-0.05	-0.04	-0.03	0.03	-0.04	0.03	0.01	-0.02	-0.03	0.03	0.14	0.03	0.13	0.30	0.08	0.07	-0.04	-0.07	0.01	-0.04	0.04	-0.01
Q8						1.00	0.02	0.09	0.08	0.00	0.03	-0.07	-0.09	0.04	-0.06	-0.02	0.05	0.08	0.07	-0.10	0.02	0.01	-0.02	-0.09	0.02	-0.02	0.07	0.11	0.06	-0.06
Q9							1.00	-0.38	-0.15	0.60	0.56	-0.22	-0.26	0.32	0.38	0.42	0.50	-0.02	0.00	0.16	-0.06	-0.10	0.21	0.23	0.08	-0.11	0.07	0.04	0.02	0.01
Q10								1.00	0.23	-0.37	-0.40	0.20	0.20	-0.25	-0.27	-0.23	-0.27	0.10	0.06	-0.17	0.09	0.15	-0.02	-0.09	0.12	-0.01	0.04	0.03	0.07	-0.06
Q11									1.00	-0.23	-0.28	0.13	0.10	-0.22	-0.25	-0.14	-0.28	0.14	0.00	-0.17	0.12	0.06	0.00	-0.10	0.09	-0.02	-0.01	0.00	0.14	0.01
Q12										1.00	0.64	-0.23	-0.29	0.35	0.46	0.45	0.61	-0.04	-0.04	0.24	-0.08	-0.04	0.20	0.24	0.08	-0.12	0.08	0.05	0.03	-0.05
Q13											1.00	-0.38	-0.44	0.40	0.51	0.49	0.62	-0.06	-0.07	0.20	-0.12	-0.05	0.15	0.20	0.09	-0.14	0.09	0.07	0.03	-0.03
Q17												1.00	0.75	-0.21	-0.27	-0.20	-0.39	0.14	0.11	-0.11	0.20	0.12	-0.01	0.00	0.02	0.12	-0.14	-0.13	-0.08	0.13
Q18													1.00	-0.32	-0.30	-0.19	-0.39	0.08	0.13	-0.14	0.20	0.17	-0.12	-0.07	0.03	0.18	-0.15	-0.16	-0.11	0.11
Q19														1.00	0.43	0.35	0.44	-0.05	0.00	0.05	-0.15	-0.19	0.10	0.21	0.02	-0.07	0.05	0.03	0.05	0.00
Q20															1.00	0.49	0.60	-0.02	0.04	0.05	-0.13	-0.02	0.09	0.16	-0.03	-0.06	0.03	-0.03	0.02	0.02
Q21																1.00	0.53	-0.09	-0.03	0.16	-0.01	0.05	0.12	0.21	-0.04	0.02	-0.04	-0.03	-0.04	-0.01
Q22																	1.00	-0.03	-0.05	0.15	-0.13	-0.05	0.13	0.22	0.10	-0.04	0.05	0.02	0.00	-0.07
Q24																		1.00	0.46	-0.13	0.17	0.24	-0.22	-0.16	0.04	0.06	0.06	0.15	0.10	-0.03
Q25																			1.00	-0.17	0.24	0.33	-0.22	-0.20	0.02	-0.06	0.08	0.09	0.07	-0.10
Q26																				1.00	-0.08	-0.09	0.18	0.21	-0.06	-0.10	0.04	0.02	0.04	0.10
Q27																					1.00	0.45	-0.09	-0.14	0.04	-0.04	-0.11	-0.04	-0.05	-0.02
Q28																						1.00	-0.12	-0.14	0.02	-0.04	-0.18	-0.12	-0.12	-0.02
Q29																							1.00	0.72	0.16	-0.18	0.07	0.07	0.12	0.05
Q30																								1.00	0.18	-0.08	-0.01	-0.02	0.05	0.08
Q31																									1.00	-0.09	0.10	0.08	0.03	0.00
Q32																										1.00	-0.23	-0.10	-0.03	0.09
Q33																											1.00	0.59	0.55	-0.17
Q34																												1.00	0.40	-0.12
Q35																													1.00	-0.15
Q36																														1.00

人と、自宅の横に保育園ができるとすると騒音に対する不安を感じるということには明確な相関が見られた（相関係数 0.61）。また、その人達は、「子どもの声も騒音だ」という明確な意識を持っており（相関係数 0.60）、「保育園や幼稚園などは迷惑施設だ」とも思っている。これらから、騒音に対する不安が大きな要素になっていることが改めて理解できる。また、その人たちの意見として、静かな住宅地には保育園や幼稚園を建てるべきではないと考えているが、前の結果と併せれば、静かな所に住んでいるからそう思っているのではなく、不安を持っているから静かな所には建てるべきでないと考えていることが推察される。

4) 「子どもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切であると思いますか」の問いに関して、大切であると答えた人ほど、騒音に対する不安を感じる人の割合が少なくなっており、併せて、住民が保育園建設に反対することに対して否定的な意見を持っていた。これらからは、子どもが大きな声を出して遊ぶことが、心身の発達に如何に大切かということをしかりと説明できれば、反対を少しでも抑えられる可能性があると考えられる

5) 東日本大震災の応急仮設住宅での調査結果⁴⁾では、日常生活の不安感や孤独感と、隣近所から聞こえてくる音をうるさく感じることに強い相関関係が見られたが、今回の結果では、このような心理的な要素の影響は殆ど見られなかった。ただ、かなり弱い相関ではあるが、日頃から漠然とした不安感を感じている人ほど、保育園の建設に反対する傾向が見られた。

3.3 クロス集計とχ²乗検定結果

相関関係の見られた質問内容に関して、クロス集計により詳細な傾向を確認した。また、併せてχ²乗検定により、有意差の評価を行った。主な内容について以下に示す。

1) 「仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起こったらどうしますか」という質問への回答に関して、回答者の属性との関係を調べた。図8は一例として、居住歴との関係をクロス集計したものであるが、居住歴が長い

ほど保育園建設に反対するという傾向はみられない。この時のχ²乗検定値は 0.27 (0.05 以下で分布に有意差あり、0.01 以下で明確な有意差あり) であり、この数値からも明確な傾向がないことが示されている。同様に、居住歴以外の回答者の属性と保育園建設反対の関係を調べた結果を、χ²乗検定値として表5に示したが、性別、年代、仕事の有無、家族構成、用途地域の何れに関しても明確な関係は見られなかった。

2) 次に、「仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起こったらどうしますか」と、「あなたの自宅の横に保育園ができるとすると、騒音に対する不安を感じますか」の関係をクロス集計したものを図9に示すが、ここでは極めて明確な傾向が示されている (χ²乗検定値 0.01 以下)。保育園建設計画に強く反対する人は、騒音に対する不安を大いに感じている人が約 90% であり、少し感じると合わせると 100% に上る。一方、不安を感じていない人は保育園建設を歓迎する傾向さえある。先の結果と合わせれば、保育園建設に反対する理由は、年代や居住歴、静かな所かそうでないかなどの条件には一

質問… 仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起こったらどうしますか。

質問：現在の住居での居住歴はどれくらいですか

■5年未満 □5～10年 □11～20年 □21～30年 □31年以上

図8 保育園建設反対意見と居住歴の関係

質問… 仮に、あなたの家の横に保育園建設計画が起こったらどうしますか。

質問：あなたの自宅の横に保育園ができるとすると、騒音に対する不安を感じますか

■大いに感じる □少し感じる □どちらとも言えない □あまり感じない □全く感じない

図9 保育園建設反対意見と不安感の関係

表5 保育園建設と回答者属性の関係

条 件	χ ² 乗検定
性 別	0.74
年 代	0.63
仕事の有無	0.63
家族構成	0.16
用途地域	0.71

切関係なく、その人が保育園からの騒音に対して不安を感じるかどうかで決定されるといえる。保育園建設反対の意見には、交通関係の不安なども上げられるが、これらの結果を見れば騒音に対する不安が最も大きな要因であり、この不安を取り除くことが出来れば、反対の人達を説得できる可能性があることを示唆している。これは、近隣対策などに関して大変に重要な知見であると考ええる。

3) 「仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起これたらどうしますか」と「静かな住宅地には、保育園や幼稚園を建てるべきではないと思いますか」の回答もほぼ同傾向であり（図 10、 χ^2 乗検定値 0.01 以下）、騒音の不安を感じている人が、静かな所には保育園を建てるべきではないという意見を持っていることが分かる。

4) また、図 11 に示すように、「子どもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切であると思いますか」に関しては、保育園建設に強く反対する人は、騒音に対する不安があるため、非常に大切だとは思っているが、建設には反対するという結果となっている。強く反対する人以外に関しては、心身の発達に大切であると考えの人が、保育園建設に好意的な態度を示す傾向があるため、この点をしっかりと説明することは、住民説明会等に集まった人たちの賛同を得るためには有効であると考えられる。

5) 保育園の新規建設は、住宅地などで計画されることが多いため、建設反対の理由が用途地域などで決まるとなると今後の立地の困難さが確定してしまう懸念があったが、今回の調査結果により、保育園建設推進の可能性とそのための留意点が示されたと考える。

4. まとめ

保育園からの子どもの声の騒音問題に関して一般市民がどのような意識を持っているかについて、首都圏の 1 都 3 県でアンケート調査を実施した。これまで漠然と、保育園の建設に反対する人は、静かな住宅地に長年暮らし、家にいる時間が長い高齢者というイメージを持ってきたが、調査の結果、用途地域、静かな場所かどうか、居住歴、年齢、性別などには一切関係なく、保育園建設に反対する主な理由は、保育園が出来た後の騒音に対する不安感を強く持っているかどうかであることが明らかとなった。反対する人の比率は全体の約 1 割であり、この人達の不安感を取り除くことが出来れば、建設を円滑に進めることが出来る可能性があることが明らかとなった。そのためには、既報²⁾ で示した子どもの声の大きさのデーターや防音塀などによる対策の効果を定量的に示し、その上で、丁寧な

質問… 仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起これたらどうしますか。

質問：静かな住宅地には、保育園や幼稚園を建てるべきではないと思いますか。

■ 思う □ どちらとも言えない □ 思わない

図 10 保育園建設反対意見と建設場所に対する意見の関係

質問… 仮に、あなたの家の隣に保育園建設計画が起これたらどうしますか。

質問：子どもが大きな声を出して遊ぶことは、心身の発達に大切だと思いますか。

■ 非常に大切だと思う □ 大切だと思う □ どちらとも言えない □ 特に大切だとは思わない □ 全く思わない

図 11 保育園建設反対意見と子どもの心身発達の意識との関係

説明と対応により、住民の不安を解消してゆくことが必要であると言える。本調査により、そのことの重要性和可能性が改めて示されたと考える。

5. あとがき

この研究は JSPS 科研費（平成 27～28 年度、挑戦的萌芽研究、課題番号 JP15K12726、「子どもの声の受忍限度に対する評価基準の構築に関する研究」、代表者・橋本典久）によって実施された。

参考文献

- 1) 大阪府：子ども施設と地域との共生に向けて ー子ども施設環境配慮手引書ー，2017 年 2 月，pp1-70
- 2) 橋本典久：保育園での子どもの遊び声に関する騒音測定調査結果，日本建築学会環境系論文集，第 729 号，2016 年 11 月，pp909-917
- 3) エム・アール・アイリサーチアソシエイツ(株)：少子高齢社会等調査検討事業報告書（厚生労働所委託「人口減少社会に関する意識調査」報告書），2015 年 3 月
- 4) 橋本典久：東日本大震災の応急仮設住宅における近隣騒音問題に関する調査研究，日本建築学会環境系論文集，第 693 号，2013 年 11 月，pp901-907

[2017 年 5 月 24 日原稿受理 2017 年 8 月 30 日採用決定]